

標 題： Nutrients and food groups and large bowel cancer in Europe
ヨーロッパにおける栄養素および食品群と大腸癌

著 者： S. Franceschi (イタリア Centro di Riferimento Oncologico[腫瘍学])

掲 載 誌： Eur. J. Cancer Prev. 8: S49-S52 (1999)

要 旨： 結直腸癌の原因における、脂肪および/または総エネルギーの摂取の役割に関して、複数の不確かさが残っている。

1992 と 1996 年の間に結直腸癌の患者 1953 人(年齢の中央値 62 歳)および病院対照 4154 人を、イタリアの 6 地域で面接した。

有効な食品頻度アンケートには、食品と調理法 78 件に関する質問および個人別脂肪摂取パターンに関する質問が含まれた。

パンとパスタ、ケーキとデザート、精製糖の摂取増加によって結直腸癌リスクが高まる有意な動向が生じた。

豆類を大部分の野菜は結腸および直腸の癌と逆の関連をした。

総エネルギー摂取は結直腸癌リスクと直接関連した。

多量栄養素のうちで、澱粉および飽和脂肪の摂取は癌リスク上昇を引起すとみられた。

多価不飽和脂肪酸(主にオリーブ油と種子油から由来)の高い摂取は結直腸癌リスクと限界的な逆関連を示した。

微量栄養素のうちで、 β -カロテン、ビタミンEおよびカルシウムは最も一貫性のある逆関連を示した。

特に精白したパンとパスタに由来するエネルギーの摂取過剰は、特にデスクワークの生活で、結直腸癌リスクに関して好ましくない地中海食事の特徴となる。

キーワード： 乳 癌、症例 - 対照研究、結直腸癌、食 事、脂 肪
